

予算の執行状況に関する調査

[議事録 1/8]

アベノミクスの達成目標

・アベノミクスの考え方

○吉川沙織君

民主党の吉川沙織でございます。
安倍内閣になって初めての質問の
機会、本会議に次いでいただきました。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は、多分午前いっぱいアベノ
ミクスの達成目標について何うこと
になろうかと思えます。アベノミクス、
今ほどの総理の答弁にもございま
したとおり、三本の矢、強調なさいま
した。



その中でスローガンもある。でも、そのアベノミクスが達成されることによって、今後この国、経済全体がどうなるのか、そして企業がどうなるのか、国民生活一人一人がどうなるのか、やはりこのスローガンに裏打ちされた具体的なイメージというものを改めて総理の口からお伺いしたいと思います。

○内閣総理大臣(安倍晋三君)



私たちが進めている三本の矢の政策は、大胆な金融緩和と機動的な財政政策、そして民間の投資を喚起する成長戦略の実行であります。

日本は、15年にわたってデフレ経済の中で景気は低迷し、賃金は減少して、国の富は失われていたわけであります。まずはしっかりと私たちは成長していくことができると

いう、この国民みんなの気持ちを取り戻すことが重要であると、こう思うわけでありまして、確かにこの三本の矢によって日本を覆っていた空気は変わった、これは事実だろうと、このように思います。

そして、強い経済を再生するためには、企業の競争力強化を図り、それによる企業収益の増加を、若者や女性を始め頑張る人たちの雇用拡大、そして収入増加につなげていくこと、そしてさらには、まだまだ実感をしていただけてはいないと思いますが、全国津々浦々に至るまでその実感を共有してもらえるようにしていきたいと、このように思います。

そのために、例えば成長戦略の中においては、一つは、大きな意味において女性の力を今まで十分に日本は活用していなかったのは事実であります。それは新たな資源でもあり、新たな可能性なんだろうと。女性の皆さんが世界で一番輝く国にしていくことは成長戦略の鍵であり、大きな柱であろうと、このように思うわけでありまして。



また、この国会には産業競争力強化法を提出をして、企業実証特例制度による企業単位での規制改革や、収益力の飛躍的な向上に向けた事業再編、起業の促進など、果敢にチャレンジする企業を応援をしていく考えでありますし、また、大胆な規制改革の突破口となる国家戦略特区を創設するなど、必要な政策を具体化を進めてきているところでございます。成長していくためにはまずは実行が必要であろうと、このように思いますので、この国会を通じてしっかりと結果を出していきたいと、こう思っている次第でございます。

○吉川沙織君



今ほど総理から答弁ございましたとおり、この臨時国会を成長戦略実行国会と銘打っておられます。そしてまた、空気感も随分良くなりました。

でも、企業の業績が良くなった、そしてそれが一人一人の賃金に反映をされて、それが財政健全化に結び付くかどうかというのはこれからだと思っています。

今総理が御答弁いただいた内容、どうも

第一次安倍内閣が引き継ぐまでの小泉政権の経済運営の考え方と似てなくもないのかなという気がするん

ですけれども、いかがでしょうか。アベノミクスと小泉政権の経済運営は全く違うものか、それとも結構似たり寄ったりのものなのか、その点についてお聞かせください。

○内閣総理大臣(安倍晋三君)

それはある意味では私は重要な御指摘だと思っております。

小泉政権というよりも第一次安倍政権のときの反省点を申し上げますと、あのときも確かに、大塚委員からも質問がございましたが、企業の収益はこの例えば十数年の中で最も高い収益を示したわけがございます。

しかし、残念ながら、それは賃金に十分に反映されたかといえそうではなかったわけがございます。

そこで、私たちは、まずは、今のデフレ経済の中にあってはなかなか企業が投資をしません。これは機材だけではなくて、設備だけではなくて、人材にも投資をしない。お金で、キャッシュで持つということになるわけがございますので、まずこのデフレ経済を変えていく、脱却をしていく。そうなれば、企業の行動として、将来はお金をずっと維持を、キャッシュを持っていることはまさにこれは経営者としては不適合になっていくわけがございます。そういう経済を確立をしていくこととともに、やはり企業にもしっかりとそのことを訴えていこうということでもあります。

そうした反省点に立って、今回はもちろん改革すべきものについてはしっかりと、小泉さん流のあの決意を持って、覚悟を持って改革をしていきたいと、こう思うところでございますが、同時に、そのような形でしっかりとこれは多くの方々がその成長の果実を享受できるような形をつくっていくということだろうと思っておりますし、また、全国津々浦々にこれを早く波及させていくためには機動的な財政政策を必要としていたと、このように思うところでございます。

○吉川沙織君

もう今日、総理の答弁の中で全国津々浦々という言葉が二回出てまいりました。確かに大企業は潤うかもしれない。小泉政権のときも大企業の業績は良くなりました。ただ、それが、富を持っている人、それから一部の大企業には配分をされた、でもそれがトリクルダウン的に本当に一生懸命生活する人、働く人にまで行き渡ったかという、そうではない可能性があります。それらの経済指標について、これからパネルで見て、実際にアベノミクスが何を指してどのような達成目標にたどり着こうとしているのか、これを見ていきたいと思っています。(資料提示)

続きの議事録(2/8)は、[こちら](#)です。